

この街に  
この人あり

# 「荻窪家族」で 人と地域をつなげる



瑠璃川正子さん

大田黒公園のすぐ近くにある自宅・アパート(荻窪4丁目)を、「荻窪家族レジデンス」という地域開放型の共同住宅として建て替えた瑠璃川正子(るりかわ・まさこ)さん。その狙いや想いを聞きました。

## なぜこのような共同住宅を建てたのですか

入居者や地域の方々が家族のようにつながって助け合う暮らし方を考えました。それが「荻窪家族」です。1階には地域の人たちも使用できるラウンジや集会室、アトリエを備えました。

集会室はメンバー制にして各種会合や講座、セミナーなどに利用してもらう予定です。医療・福祉・介護など日常的な課題について専門家が相談に応じる「荻窪暮らしの保健室」や子育て支援のサロンなどを企画しています。



百人カサロン

## 入居者の方はどのようにして決めますか

世話をしてほしい…という感覚で来られると、それはちょっと違います。自分の体力が衰えても他人に何かを

してあげたいという人、弱ってしまっても入居者や地域の人々が支援する気持ちになれる人に住んでほしい。入居前によくお話し、「助け合い」を十分理解していただくことにしています。



レジデンスの外観

## このプロジェクトには多くの方が関わっているとが

共感してくれた老年学の研究者、建築家、若い世代で作る設計事務所、介護の専門家等さまざまな分野の方に関わっていただき、「百人力」になっています。ここに集う多くの人たちが助け合い、支え合うという意味を込めて集会室などを「百人カサロン」と呼んでいます。  
(問い合わせ先 mail: ogikubokazoku@gmail.com)